

講義科目名称： 母性看護学援助論Ⅰ

授業コード： 6630300200

英文科目名称： Advanced Nursing Maternal-InfantⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2学年	2単位	選択 助産師必修
担当教員			
◎常盤洋子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 通年	【授業時間】 30時間		
	【担当教員】 【氏名】 ◎常盤 洋子	【所属】 新潟県立看護大学	【研究室】 320	【メールアドレス】 yotokiwa@niigata-cn.ac.jp
	【大学の科目区分】 専門分野			
	【DP1】 ◎	【DP2】 ◎	【DP3】 ◎	【DP4】 ○

到達目標	1. 母性看護学研究の動向について説明できる。 2. 母性看護学研究の課題について説明できる。 3. 母性看護学研究における研究方法について説明できる。 4. 母性看護の対象である女性とその家族への看護について多角的な視点から述べるができる。 5. 自己の研究課題と研究計画について述べるができる。
------	---

授業概要	講義、文献検討、グループ討議、プレゼンテーション等を通して、母性看護の実践者としての基盤形成につながる内容で構成している。母性看護実践に関連する概念の理解を深め、女性とその家族への看護を多角的な視点をもって検討する。
------	--

授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 学修課題：オリエンテーション 学修内容：学習の進め方 備 考：常盤
	2	授業内容 授業形態：講義 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義/概念、国際比較、現状と課題、アプローチ法、ドメスティックバイオレンスにおける健康問題とケアシステム 備 考：増澤
	3	授業内容 授業形態：演習 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題、国際比較、現状と課題、アプローチ法、ドメスティックバイオレンスにおける健康問題とケアシステム 備 考：増澤
	4	授業内容 授業形態：演習 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題、国際比較、現状と課題、アプローチ法、ドメスティックバイオレンスにおける健康問題とケアシステム 備 考：増澤
	5	授業内容 授業形態：講義・演習・討論 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題、国際比較、現状と課題、アプローチ法、ドメスティックバイオレンスにおける健康問題とケアシステム 備 考：増澤
	6	授業内容 授業形態：講義 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：現代家族の現況と課題、家族看護の理論、事例検討 備 考：常盤
	7	授業内容 授業形態：討論 学修課題：リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念理解、性と生殖に関わるメンタルヘルスケア 学修内容：現代家族の現況と課題、家族看護の理論、事例検討 備 考：常盤

	8	授業内容 授業形態：講義 学修課題：周産期におけるメンタルヘルスケア 学修内容：出産体験の臨床的意義 備 考：常盤
	9	授業内容 授業形態：講義 学修課題：周産期におけるメンタルヘルスケア 学修内容：ライフストーリー理論を活用した出産体験の意味づけの支援 備 考：常盤
	10	授業内容 授業形態：講義 学修課題：周産期におけるメンタルヘルスケア 学修内容：ペリネイタル・ロスにおけるメンタルヘルスケア 備 考：常盤
	11	授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：母性看護における倫理的課題の理解 学修内容：看護実践における倫理原則と倫理的意思決定モデルと先行研究や実在事例を用いた検討 備 考：増澤
	12	授業内容 授業形態：演習 学修課題：母性看護における倫理的課題の理解 学修内容：看護実践における倫理原則と倫理的意思決定モデルと先行研究や実在事例を用いた検討 備 考：増澤
	13	授業内容 授業形態：発表 学修課題：母性看護における倫理的課題の理解 学修内容：看護実践における倫理原則と倫理的意思決定モデルと先行研究や実在事例を用いた検討 備 考：増澤
	14	授業内容 授業形態：講義 学修課題：母性看護実践に関連する理論の活用 学修内容：母性看護実践に関連する理論の母性看護の実践、母性看護学・助産学研究への活用 備 考：常盤・増澤
	15	授業内容 授業形態：討議 学修課題：母性看護実践に関連する理論の活用 学修内容：母性看護の実践、母性看護学・助産学研究への理論の活用・討論 備 考：常盤・増澤
事前・事後学習	事前学修：履修オリエンテーション時に提示する。 事後学修：講義内容を振り返り、自己の看護実践と関連させ、各自の看護実践上の課題や関心に関連がある文献を精読する。	
評価方法、評価基準	到達目標 1 ～ 5 に対して、討論への主体的参加を重視し、プレゼンテーション50%，修了レポート50%で評価する。	
テキスト	最新の論文や文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。	
参考図書・資料等	鈴木和子・渡辺裕子（2019）：『家族看護学 理論と実践』，日本看護協会出版会。 M・マクゴールドリック他、石川元訳（2009）：『ジェノグラム（家系図）の臨床』，ミネルヴァ書房。	
受講、課題、資料配布等のルール	プレゼンテーションを行う学生は、授業前に人数分をコピーし、事前配布する。 プレゼンテーション、ディスカッションは学生が進行する。 欠席の場合は必ず担当教員に事前に連絡する。	
教員からのメッセージ	母性看護を深く掘り下げる視点を学修する科目なので問題意識をもって取り組むことを期待します。	
オフィスアワー	随時メール等で調整してください。	